

公法後継の旨

其最低限は一日五十以上とし

お十日目

予言を以て人の別紙管の性質を以て性質を以て後継を以て不可知
トシ管の中を以て終止計ノ様ニ時業セトテ四月三日更ニ解任通知
ヲ轄之ノ各自定ニ動送セリ而シテ胎ノ迄生おノ事業之ノ同性
無条件ノ場ノ為地ノ結果於来地後ノ免テ了レリ今尙存候
其ノ印ノ其旨に依リ成リ、あしつ、つ、
1. 現職等上層者ノ時々有テ保之者新様ノ結果一互調停
ノ断念已ニ油付者再ニ切望留ノ存在ニ至レ、
既ニ協定ノ約束之ニ

六但シ予言主不在中ノ付同ノ協定ニ之ノ存否
然レニ一見沙多ク晦シク性ニ多クナリ此レ也シテリ調停者ノ正協定

先ト協定上層者代表ト自定ニ此ノ存見ノ在ニ条件ノ覚
書手立ノ上ノ内情解出ス

1. 胎ノ市川梅共他田名ノ解任元下、
此ノ解任胎ニ付シ湘及至ニ解任手立ニ付 惣額千二
百圓ノ控給スル下

ハ、被職首者ニ是舞等々一人五十圓宛院舞元下

ニ、舞業胎ノ家族見舞手立トテ八百圓ノ控給スル下
共一刺トテ(予言費)金四百圓ノ控給スル下

覚書(二付之例)
ノ解任手立

予言手立リ控三千円トシ上層者ノ控給スルニ付
ノ返給手立

解任手立ノ世あり然レニ予言手立ニ付高田也